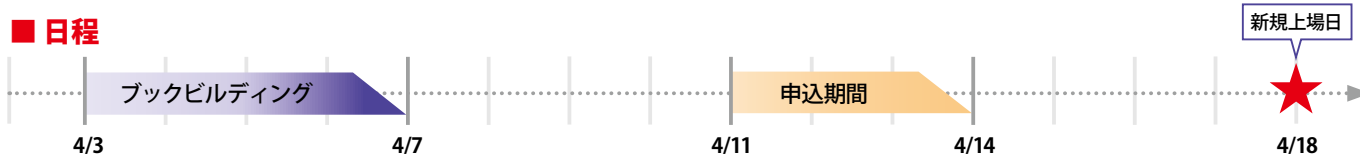


IPO銘柄 旅工房 (6548・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
6548	100株	公募: 45.00万株 売出: 11.00万株 (OA8.40万株)	1,220円~1,370円 (15.7倍)	大和証券



オンラインで国内外向けパッケージ旅行等を販売

■ 事業内容

オンラインによる国内外パッケージ旅行の企画、販売を行う。主力は国内の個人顧客で、オンラインでの旅行の企画、販売のほか、航空券の販売や宿泊手配、オプションツアーの手配を行っている。インターネットでの顧客獲得を行っており、パッケージ旅行関連の販売チャンネルを自社ホームページなどインターネット上に絞り込み、また顧客とのやり取りをメールや電話をメインにすることで店舗開設や運営にかかわる固定費を削減している。取り扱う旅行先はアジア、ハワイやバリ島などのビーチリゾート、欧米がメイン。法人旅行は直近16年3月期ベースで17.7%を占めた。インバウンド旅行事業として訪日外国人旅行者を対象とした旅行の手配も行う。旅行業の単一業態。

■ 特徴

旅行予約は「トラベル・コンシェルジュ」がサポートする仕組みと、自動化された販売システムを使用して顧客が自身の操作で予約手続きを行う仕組みがある。インターネットユーザーの中にある、商品ページに記載されているよりも詳細な情報を知りたい、相談して旅行先を最終決定したい、複雑な旅程や条件で予約したいといった、システムでは対応しきれないニーズに応えるため、方面別に旅行先の事情に精通したプロフェッショナルによる電話やメールでの対応を組み合わせたハイブリッド戦略を推し進めている。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年3月期の連結経常利益は前期比6.0%増の2億4,000万円を計画する。旅行市場は着実に拡大しており、インターネットを介した申し込みの件数は高成長。競争激化も懸念されるが、成長市場の中で中長期的な業績拡大が期待される。

■ 定性分析

旅行業界のネット化は急速に進んでおり、エボラブルAやオープンドア、アドベンチャーなどが上場し、株式市場で高い評価を得ている。旅行代理店「てるみくらぶ」の経営破たんが社会的な注目を集める中での上場だけに、通常のIPOよりも話題となりそうだ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は9億円弱。新興市場上場案件としても軽量感がある水準で、ベンチャーキャピタル保有株もないため、需給妙味は非常に大きい。IPOラッシュが通過した後の4月の上場であるため、短期資金が集中する可能性もある。(小泉健太)

■ 類似企業

旅工房(6548・マザーズ)	予想PER15.7倍 (仮条件上限)
アドベンチャー (6030・マザーズ)	予想PER98.0倍
エボラブルアジア (6191・東証1部)	予想PER82.2倍

■ 引受証券

大和証券、SMBC日興証券、SBI証券、エイチ・エス証券、エース証券、いちよし証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年3月期(実績)	20,837	—	122	—	92	—	51.4	0.0
16年3月期(実績)	21,697	4.1	226	85.3	135	46.1	75.2	0.0
17年3月期(会社予想)	22,013	1.5	240	6.0	156	15.7	87.0	0.0

※ 15年3月期より連結決算。16年2月(1株→10株)、および同12月(1株→100株)に株式分割を実施。15年3月期、16年3月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年3月期	1,800	2,818	164	90	91.6	5.8	81.0
16年3月期	18,000	2,777	268	90	148.9	9.7	62.5

※ 15年3月期、および16年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位 (上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	高山 泰仁	1,403,600	74.07
2	坂井 直樹	100,000	5.28
3	野口 孝寿	73,800	3.89
4	葛野 悦子	26,000	1.37
4	戸田 輝	26,000	1.37
6	前澤 弘基	23,000	1.21
7	多田 清花	22,000	1.16
8	船渡川 崇	20,500	1.08
9	太田 耕一郎	20,100	1.06
10	川尻 郁夫	20,000	1.06
10	前田 宣彦	20,000	1.06

経営陣

	役職	氏名
代表取締役	会長兼社長	高山 泰仁
取締役	法人営業部門管掌	雨宮 孝介
取締役	レジャー部門管掌	葛野 悦子
取締役	コーポレート本部長	前田 宣彦
取締役		國重 惇史
取締役		河合 洋
取締役		戸田 輝
監査役 (常勤)		菊池 直俊
監査役		川合 弘毅
監査役		志村 直子

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。